

令和5年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和5年 2023年 9月値・要約版)

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴があるのかを分析しています。詳細はたつの市商工会HPで公開しています。

(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

産業全体の景気動向の推移

〈用語説明〉DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す
(調査事業所4、「好転」事業所1、「悪化」事業所3なら、25%-75%=-50%がDI値)

<概要>

最新の日銀短観(2023年9月)の調査結果においても、中小企業の業況判断DIは「先行き」に関しては総じて慎重な姿勢がみられるが、特に非製造業において物価上昇を背景とするコスト増や需要の減少、深刻な人手不足による従業員の確保難、人件費増加といった様々な問題が懸念されており、先行きの不透明感は払拭されていない。今後の景況の推移には引き続き注意が必要である。

<地域別>

【全国】

2023年7-9月期の全産業における業況判断DIは、▲20.3(前期差7.1pt減)となり、前期から悪化。製造業の業況判断DIは、▲24.2(前期差8.7pt減)となり、前期から悪化した。

建設業の業況判断DIは、▲25.8(前期差7.8pt減)となり、前期から悪化した。商業の業況判断DIは、▲28.4(前期差7.8pt減)となり、前期から悪化した。サービス業の業況判断DIは▲2.7(前期差3.8pt減)となり、前期から悪化。前期に比べて全体的に悪化しており、原材料高騰は依然として続いており、先行きに対する不透明感が依然として強い。

【兵庫県】

企業の業況判断は足もと改善し、先行きも横ばい圏内を見込んでいる。個人消費は回復に向けた動きが広がっている。輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は増加計画にある。生産は一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい傾向にある。有効求人倍率は前月と同水準であった。雇用者所得は全体として改善の動きがみられる。倒産件数は前年を上回った。

【西播磨】

西播磨全体の業況は、▲22.9(前期差13.9pt減)となり、前期から悪化。売上高は、▲16.4(前期差17.2pt減)となり、前期から悪化した。採算状況が、▲40.3(前期差20.8pt減)と悪化、資金繰りは、▲28.6(前期差12.8pt減)となり、前期から悪化した。来期は、▲9.3(前期差4.2pt増)で回復する見込みとなっている。全国と同様に悪化傾向となっている。

【たつの市】

たつの市の業況は、▲30.0(前期差16pt減)となり、前期から悪化。売上高は、▲26.0(前期差10pt減)となり、前期から悪化、採算状況は、▲60.0(前期差14pt減)となり前期から悪化した。資金繰りは、▲40.0(前期差20pt減)となり、前期から悪化した。来期は▲2.0(前期差10pt減)で悪化すると見通しとなっている。

前期に引き続き、原材料の高騰による仕入値や商品価格の改定が次々となされ、各業種においても厳しい状況ではあるが価格転嫁により、徐々に利益確保に何とか繋げている。

<業種別業況>

全国的には、9月期の産業全体の景況は、前月に比べて採算・資金繰りDIがわずかに改善したものの、売上額DIが小幅に悪化、業況DIはわずかに悪化した。一時的な売上回復とその反動減で売上が安定しない。取引先の業績悪化のため、売上が回復しない店舗もある等のコメントが見られた。大企業製造業の景況感は堅調さがある一方、小規模事業者の景況感は力強さに欠け、先行きに対する不透明感が依然として強い。

<総括コメント>

国内景気は、緩やかに回復している。先行きについては雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

たつの市においては、人流が多い地域柄であるので、新型コロナウイルス感染症にも引き続き配慮しつつ、たつのふるさと応援商品券での地元買い回り率の向上や、各事業者においては経営計画により、政府の経済対策(小規模事業者持続化補助金・ものづくり補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数
(仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

令和5年9月期の有効求人倍率は、全国1.29倍、兵庫県1.01倍、龍野管内0.93倍となっている。景気の先行き不透明感から雇用が多い建設業や製造業の間で、人手不足でも新たに従業員を採用するには慎重な動きが続いている。求職者の減少も続いた。

たつの市は増加傾向であるが、兵庫労働局は足元の雇用情勢に大きな変化はないとみて情勢判断を据え置き。「持ち直しの動きにやや弱さがみられる」との見方を示した。

